中日辞典（凡例）

1 見出しについて

1.1 この辞典には、見出しの漢字（親字）と見出し語の2種類の見出しがあります。

1.2 見出しの漢字は異体字・多音字を含め約13,500字、語彙は見出し語・関連語その他を含め約100,000語を収めました。北京・商務印書館発行、中国社会科学院語言研究所詞典編輯室編『現代漢語詞典（2002年増補本）』に収録された漢字および見出し語のほとんどすべてを採録したほか、『新華字典』（商務印書館発行）から親字を若干、採録しました。見出し語についてはさらに、近年使用の目立つ新語と、日本人学習者に必要と思われるものを『新華詞典』『応用漢語詞典』（ともに商務印書館発行）などから相当数補充しました。

2 発音について

2.1 発音は中国語表音表記法（「漢語拼音方案」1958年成立）に基づき若干の手直しを加え、ローマ字と声調記号によって示しました。

2.2 発音表記についての注意

(1) 音節が連続して読まれる場合に生じる声調変化は示さず、音節本来の声調で表記しました。したがって、次のような場合、表記と実際の発音では違いがあります（括弧内が実際の発音）。

例：好使：hǎoshǐ（háoshǐ）
　　一定：yīdìng（yídìng）
　　一心：yīxīn（yìxīn）
　　不论：bùlùn（búlùn）

(2) ただし、同じ音節を重ねることによって生じる声調変化は、実際の変化通りに表記しました。

例：好好儿　hǎohāor
　　慢慢儿　mànmānr

(3) 軽声には、声調記号を付けません。

例：桌子　zhuōzi

(4) 接尾語 "-儿-er" が前の音節と融合した場合（r化）の表記は、一律に「r」としました。したがって、実際の発音とは異なる場合があります。
また、接尾語 "-子-zi" は「z」とは表記せず「zi」と表記しました。

(5) 音節を続けて書く場合、次のような例には音節区切り記号「'」（アポストロフィー）を用いて、音節の区切りを示しました。
例：音節間で母音が続く場合 "皮袄 pí'ǎo"
-n・-ngと母音が続く場合 "恩爱 ēn'ài" "名额 míng'é"

(6) 語気助詞 "啊 a" は、前の音節の末尾の音によって発音が変化しますが、一律に「a」で示しました。

2.3 二つ以上の読みを持つ漢字と単語・成語などは、「普通話異読詞審音表」（1985年12月修訂）に従い、今日標準とされる読みを示しました。そこで整理された読みで現在も必要と思われるものは、発音欄に説明を加えました。

2.4 発音表記と実際の発音に違いが生じたり、標準音と慣用音に差が認められる場合、および時によって軽声にも読まれるものなど発音上とくに注意が必要と思われるものは、それぞれの項目に発音によって説明を加えました。

2.5 固有名詞は、初めのローマ字を大文字で記しました。姓名は、姓・名とも大文字で記しました。

3 見出しの漢字

3.1 見出しとして掲げた漢字（親字）の字体は、今日、中華人民共和国において標準字体とされている字体です。歴史上、同音・同義で使用されたことのある字形（異体字）は括弧に入れて示しました。ただし、偏・旁については、そのすべては示しておりません。
例：马（馬）とは示しましたが、骚（騒）とは示しておりません。

3.2 標準字体のなかには、中華人民共和国成立以降に簡略化された漢字と旧来の簡体字が多数含まれています。これらの種類と使用範囲は、国家語言文字工作委員会が1986年に発表した『簡化字総表』とその関連説明に従いました。

3.3 今日、中華人民共和国で使用されている字体は1964年発表の『印

刷通用漢字字形表』によって整理され規範化された字体です。この字体は「新字形」と呼ばれ、旧来の中国の漢字および現行の日本の漢字と形・書き方が異なるものを含みます。

3.4 見出しの漢字は、音形の同じものは一つの漢字として扱いました。歴史的に来源が異なる場合を含め、意味の違いによって見出しを別立てにはしていません。例えば、"白"で表記される単語には、「白い」「(字が)まちがっている」「述べる」という大きく異なる意味の単語がありますが、"白1""白2""白3"として二つ以上の"白"という見出しの漢字を掲げる扱いはしていません。ただし、このように意味が大きく異なる場合は、語釈のなかで**1** **2** **3**の記号で区別しました。

3.5 字形が同じ漢字でも音形の違うものは、別見出しとしました。例えば、"好"はhǎo、hàoの二つの音で読まれます。したがって、漢字"好"はhǎoとhàoそれぞれに対応する見出しの漢字として掲げました。

3.6 上記のように音形が複数ある漢字については、異読に見出しとは異なる読みを示し検索の便を図りました。
例:【好hǎo】では説明の最後に、異読〖好hào〗を掲げました。

3.7 漢字の表す内容は、単語あるいは単語を構成する要素です。この点は見出し語と同様であり、見出し語同様にそれぞれの意味・用法の説明を加えました。見出しの漢字が、接尾語"-儿""-子"を付けて単語として使用される場合には、漢字説明の中で(〜儿)(〜子)の形で説明し、常用されるものについては見出し語にもその単語を挙げました。

4 見出し語

4.1 見出し語は、単語のほか、連語・成語・慣用語・諺・接尾語・造語要素などを含みます。

4.2 見出し語は、表音表記を前に示し、漢字表記を後ろに示しました。
例:ānpái【安排】 hánchen【寒碜・寒伧】

4.3 二つ以上の単語から作られていることが明らかで表記が長めになる見出し語は、分かち書きをしました。成語も、原則として分かち書きとしました。

例： Ānquán lǐshìhuì【安全理事会】
bā bài zhī jiāo【八拜之交】

4.4 「kàn//jiàn【看见】」「qǐ//lái【起来】」のように、「//」（ダブル・スラッシュ）を入れた見出し語は、「//」の部分に他の成分を挿入することができることを表します。ただし、この「//」記号は、動詞用法に有効で、名詞用法の場合には意味を持ちません。

例：kàn//jiàn【看见】 → 看得见、看不见
qǐ//lái【起来】 → 起得来、起不来
tóng//xué【同学】 → 我们俩高中时同过两年学
→ 老同学。►この場合は名詞なので、間に他の成分は挟めない。

5 常用字・重要語について

5.1 学習上の目安として、見出し漢字の常用字に「⁑」や「*」印を付しました。
「⁑」印を付した漢字は、国家語言文字工作委員会・国家教育委員会（現在の教育部）制定の『現代漢語常用字表』の常用字2500字です。
「*」印を付した漢字は、同じく『現代漢語常用字表』の次常用字1000字です。

5.2 常用字のうち意味・用法が多岐に渡る漢字については、「ポイントのまとめ」を設け意味・用法の大略を把握できるようにしました。

5.3 学習上の目安として、重要語約8000に「⁑」「*」「☆」印を付し3段階に分けました。
「⁑」印を付したものは最もよく使用される単語で約1000語あります。
「*」印を付したものはよく使われる単語で約3000語あります。
「☆」印を付したものは、上記二つについでよく使われる単語で約4000語あります。
これらの単語の選定には、中国や日本で作られた語彙調査資料、初級・中級の教科書、HSKをはじめとする各種の中国語検定の辞書・参考書などを参照して編集委員の山田眞一が選定した後、他の編集委員やインフォーマントの判定も参考にして決定しました。

5.4 見出しの漢字にも、「⁑」「*」「☆」印がついていたり、「*」印と両方が

ついているものがありますが、これらは、常用字であるとともに、漢字1字で単語としてもよく使用されるものであることを示しています。

6 語釈と用例

6.1 意味が複数に分かれる場合、**1**、**2**、**3**により分類して示しました。さらに区分けが必要と思われるものは、語法的なものは[a][b][c]で、意味的なものは①②③で示しました。また訳語でニュアンスの異なるものは「；」(セミコロン) で区切っています。

6.2 来源が異なることなどにより、意味に大きな隔たりがある場合には、**1**、**2**、**3**によって区分しました。

6.3 意味の区分を示す数字**1**、**2**、**3**の後ろに、括弧で同義・類義語 (=)、反義·対義語 (↔) を挙げました。これらの同義、類義、反義、対義の語は比較的ゆるい基準で示してあります。

6.4 常用字の説明の末尾には、[下接] 記号に続けて、その漢字を第2音節以降に含む語例を列挙しました。[成語] の後ろにも同様の四字熟語を挙げました。

6.5 名詞、動詞、形容詞については、その品詞名を記していません。ただし、訳語と用例でその文法上の機能が明らかになるよう努めました。代詞 (人称代詞、指示代詞、疑問代詞)、量詞、方位詞、数詞、副詞、介詞、接続詞、助詞、感嘆詞、擬声語、接尾語については、説明が必要と思われる範囲で品詞名を記しました。

6.6 重要な名詞には、[量]の記号の後ろに、その名詞について使用される量詞を示しました。

6.7 項目の後ろに、必要に応じて、〈書〉(文章語)、〈口〉(話し言葉)、〈方〉(方言)、〈成〉(成語)、〈喩〉(比喩) などの記号で使用レベルを示しました。また、専門語には、〈軍〉(軍事)、〈生理〉(生理学) などの記号で、その分野を示しました。

6.8 用例は、語釈と対応させて見出しの意味の理解を容易にし、その用法を明らかにする例文・例句を挙げるよう努めました。全部で約90,000の用例を載せています。

6.9 用例の始まりには、「¶」(パラグラフ記号) を置きました。用例と日本語訳の間は「/」(スラッシュ) で区切りました。

6.10 用例中の見出し相当の漢字と語句は、「～」で示しました。

7 注意・参考など

7.1 見出しの説明には、次の記号によって各種の補充説明を行いました。

- 語法　文法上の注意事項。
- 比較　類義語間の意味・用法の違い。
- 日:中　漢字で対応する日本語がある場合、その意味·用法の違い。
- 注意　用法上などでの注意事項。
- 参考　関連する事項で、中国語学習のうえで参考になると思われる事柄。
- 発音　発音上の変化、発音上の注意。
- 語源　その言葉の由来を知る上での参考事項。

8 記号・略号一覧

- ＊ ＊　常用字を示す。
- ★ ★ ☆　重要語を示す。
- -　接尾語を示す。
- 【 】　見出し語の中国漢字表記を示す。
- **1** **2**　大きな語義分けを示す。
- 1 2　語義番号を示す。
- a b　(語法的な) 用法の違いや細かな語義分けを示す。
- ① ②　(意味的な) 用法の違いや細かな語義分けを示す。
- (=)　同義語・類義語を示す。
- (↔)　反義語・対義語を示す。
- 画　漢字の画数を示す。
- ‖　文字情報の区切りを示す。
- ¶　用例の始まりを示す。
- ～　見出し相当語の省略を示す。
- /　用例中の中国語と日本語の境を示す。
- “ ”　日本語の文中の中国語を示す。
- ►　訳語・用法等の補足説明を示す。
- 量　見出し語に使われる量詞。

⮡　空見出しから主見出しへの参照を示す。
⇨　参考になる関連見出しへの参照を示す。
⇶　次にその親字が使われた熟語があることを示す。
→　親字の用例の空見出しで、それが熟語として立項されていることを示す。
下接　親字の漢字を第２音節以降に含む熟語を示す。
成語　親字の漢字を第２音節以降に含む四字熟語を示す。
異読　親字に別の音があることを示す。

〈成〉成語　〈略〉略語　〈書〉書面語　〈口〉口語
〈方〉方言　〈俗〉俗語　〈転〉転義
〈旧〉旧中国で使われていた言葉・語義　〈近〉近世の白話
〈古〉古代に使われていた言葉・語義　〈諺〉ことわざ
〈套〉挨拶などの儀礼的な常套句　〈喩〉たとえ・比喩
〈敬〉敬語・敬称　〈謙〉謙譲語　〈婉〉婉曲表現　〈慣〉慣用語
〈諧〉諧謔　〈諷〉諷刺・皮肉の表現　〈罵〉罵り言葉
〈蔑〉軽蔑的な言葉　〈貶〉貶(けな)し言葉
〈譏〉そしり、非難するニュアンスをもつ言葉
〈中医〉中国の伝統医学・漢方　〈中薬〉中国薬・漢方薬
〈医〉医学　〈薬〉薬物・薬学　〈姓〉単姓・一字で姓として使う字
〈複姓〉複姓・二字以上の姓　〈宗〉(仏教を除く)宗教
〈仏〉仏教　〈史〉歴史上の事柄　〈物〉物理
〈化〉化学　〈天〉天文・天体　〈気〉気象　〈地〉地理
〈地質〉地質学　〈鉱〉鉱物　〈石油〉石油　〈数〉数学
〈冶〉冶金　〈印〉印刷　〈電〉電気　〈電子〉電子工学
〈電算〉コンピュータ　〈統計〉統計　〈機〉機械
〈紡〉紡績　〈裁〉裁縫　〈映〉映画　〈無〉無線
〈測〉測量　〈水〉水利・治水　〈音〉音楽　〈美〉美術・美学
〈写真〉写真　〈劇〉演劇　〈心〉心理学　〈論〉論理
〈生理〉生理学　〈生〉生物学　〈古生物〉古代の生物
〈生化〉生化学　〈文〉文学　〈語〉言語学・語学
〈経〉経済・商業　〈商標〉商標　〈政〉政治　〈法〉法律・司法

〈軍〉軍事　〈動〉動物　〈植〉植物
〈虫〉昆虫類・クモ類　〈魚〉魚類　〈貝〉貝類
〈鳥〉鳥類　〈農〉農業　〈林〉林業　〈牧〉牧畜業
〈体〉体育・スポーツ　〈交〉交通　〈自〉自動車
〈航空〉航空　〈航海〉航海　〈環境〉環境　〈料理〉料理
〈食材〉食材

日中辞典（凡例）

1 見出し語

1.1 この辞典には、日本語を中国語におきかえるうえで必要と思われる基本語、複合語、ことわざ、慣用句、新語、俗語、外来語、動・植物名、各専門分野のことば等、現代生活でよく使われる約９万語を収めました。助詞、助動詞、接頭語、接尾語等もできる限り収録しました。

1.2 接頭語、接尾語はそれぞれ前と後にハイフン（−）を付けて示しました。

1.3 見出し語の中で、特に基本的なもの約1500語に、「＊」を付しました。これは各種資料を参考にして編集部の判断で選定したものです。

1.4 慣用句・成語・ことわざ（準見出し）
原則としてその冒頭に現れる語を本見出しとみなして、その見出しの解説末尾にまとめて配列しました。ただし、中心的な意味・役割の語が冒頭に来ないものは、例外的にその主要な語を本見出しと定めて扱いました。その場合は、できるだけ➞や➪で、相互に参照できるようにしました。

2 見出し語の表記

2.1【　】の中に、見出し語の漢字を用いた一般通用の書き表し方を示しました。ただし､動･植物名は原則として漢字表記を省きました。

2.2〖　〗の中には外来語のもとの外国語を適宜示しました。外国語の頭に付けた小文字のド・フ・イなどはドイツ語・フランス語・イタリア語などの意味で、表示のないものは英語となります。

2.3 日本語と外国語とが合成されてできた語はつぎのように示しました。

アートし【一紙】「一」部分はもとの外国語綴りを省略した意味です。

3 品詞

3.1 見出し語の表記だけではその語の品詞が識別しにくい場合には、

必要に応じて【　】の後ろに品詞名を示しました。

名＝名詞	代＝代名詞	自動＝自動詞	他動＝他動詞
形＝形容詞	形動＝形容動詞	副＝副詞	助動＝助動詞
助＝助詞	接続＝接続詞	感＝感動詞	接頭＝接頭語
接尾＝接尾語	補動＝補助動詞		

3.2 動詞や助詞などで、検索に便利なように、自動 他動〖副助詞〗〖格助詞〗のように分けて示したものもあります。

3.3 ひとつの見出し語の中でふたつ以上の品詞を扱う場合や用法の異なりが著しい場合は 1 名… 2 副… のように示しました。

4 語義と訳語

4.1 見出し語の意味が複数に分かれる場合、迅速に求める語義にたどりつけるよう、1《　》… 2《　》… のように示しました。《　》の中には見出し語のそれぞれの語義をわかりやすく示しました。ただし、語義の差が小さい場合、語義分類をするとかえって複雑になる場合は、あえて分類しませんでした。

4.2 訳語はできるだけ現在よく使われるものを掲げるようにつとめました。

4.3 訳語が複数に及ぶときは、それぞれをカンマ(,)で区切りました。ひとつの語義の中で訳語が複数になり、それぞれの訳語の意味の差、使われ方の差が比較的大きい場合はセミコロン(；)で区切りました。その際、意味の差、用法を適宜、訳語の前に[　]で囲んで示すようにしました。

4.4 訳語の後ろには必要に応じ、書(書面語)、口(口語)、方(方言)、俗(俗語)、成(成語)の記号で使用レベルを表示しました。

5 用例

5.1 用例は、現在　日常的に用いられる平明な例文・例句を挙げるようつとめ、全部で約15万例収録しました。その配列順序は、原則として ①語句、短句、短文 ②文 ③派生語および複合語　の順としました。

5.2 用例の始まりには、それぞれ　¶(パラグラフ記号)を置きました。日本語用例と中国語訳との間は / で区切りました。

5.3 用例中の見出し語相当語句は、～で示しました。見出し語が用例

中で濁音・半濁音に変化する場合も、～で代用しました。活用語で形が変わるものは、～で代用することはせず、そのまま全体を記述することにしました。

5.4 用例の中国語訳の中で、代替可能な部分は「○○〔××〕の形で示しました。○○と××は入れ替えが可能であることを示し、その起点は「以降であることを示しています。ただし、文頭およびカンマ(,)で区切れているところから代替可能な場合は、「を省略しました。

6 用法・注意・参考など

6.1 訳語の用法、意味の差などは、訳語の前に[ ]で示すことを原則としましたが、さらに補足を要する場合は ► の記号を用いてその後ろに若干の説明を加えました。

6.2 注意 参考 比較 語法 欄を各語義の末尾、解説全体の末尾に置き、訳語もしくは見出し語全体におよぶ内容の補足説明を適宜施しました。

7 相互参照

7.1 ほとんど同じ意味の語、音が異なるが内容が同じ語は、一方をカラ見出し、もう一方を主見出しとして、つぎのように参照させました。

あけはなし →あけっぱなし(「あけっぱなし」の項で解説)
あちらこちら →あちこち(「あちこち」の項で解説)

7.2 他の見出し語に、関連の記述がある場合、または補足的な記述がある場合は、つぎのように参照させました。

あちら…… ⇨こちら、⇨そちら

8 ピンイン(拼音)表記

8.1 見出し語の訳語には、漢字表記の後に《汉语拼音方案》(中国語ローマ字表記方案)によるピンイン表記を示しました。ただし対訳語になっていない解説的訳語の場合は、一部のピンイン表記を示すにとどめました。

8.2 準見出し(1.10参照)の訳語、および用例の訳文には、読みにくいと思われるものにのみ適宜、部分的にピンイン表記を示しました。

8.3 原則として、単語をつづけ書きの単位としました。
8.4 成語は漢字ごとに分かち書きしました。
8.5 異読詞の音は、《普通话异读词审音表》(1985年12月修訂)に従いました。
8.6 “一yī”、“不bù”は、声調変化が起こる場合もすべて原声調を記しました。
8.7 隔音符号のアポストロフィ(’)が行末に来る場合は、これを省略しました。

9 日本文化紹介コラム

日本独特の生活・文化を表現する語について、その背景・周辺の知識などを含めた解説文(日本語と中国語)を加えたコラムを約100項目設け、より充実したコミュニケーションを目指す学習者の参考としました。中国語訳は日本語を逐語的に訳さず、日本語にはないが中国語で解説する場合必要と思われる語句を随時補っています。

10 場面別会話表現コラム

日常的会話表現に習熟する助けとなることを目標に、見出し語に関連する場面において、会話として出現することの多い中国語の表現(例:見出し語“叱る”に対して、「こら、何やっているんだ」「何度言ったらわかるんだ」などの表現)を約100項目コラムにまとめています。

11 記号の使い方

*	基本語を示す。
-	接頭語、接尾語を示す。
【 】	見出し語の漢字表記を示す。
〖 〗	外来語のもとの綴りを示す。
1 **2**	品詞の区別、または意味区分が大きく変わることを示す。
１ ２	語義番号を示す。
《 》	語義分けの定義の説明を示す。

[ ]　訳語の用法指示、ニュアンスの差などを示す。
「○○〔××〕「を起点にして○○と××が入れ替え可能であることを示す。
¶　用例の始まりを示す。
～　見出し相当語の省略を示す。
/　用例中の日本語と中国語の境を示す。
➡　カラ見出しから主見出しへの参照を示す。
⇨　参考になる関連見出しへの参照を示す。
►　訳語、用法などについての簡単な補足説明を示す。
“ ”　日本語の文章の中の中国語を示す。

12 主な略語表

〈語〉言語学　〈史〉歴史　〈宗〉宗教（仏教を除く）
〈仏〉仏教　〈楽〉音楽　〈哲〉哲学　〈工〉工業
〈天〉天文学　〈化〉化学　〈地〉地理　〈地名〉地名
〈電〉電気　〈心〉心理学　〈軍〉軍事、軍隊
〈体〉体育、スポーツ　〈法〉法律、法学　〈政〉政治、外交
〈経〉経済、商業、貿易　〈論〉論理学
〈ギ神〉ギリシア神話　〈ロ神〉ローマ神話
〈医〉医学　〈薬〉薬理、薬学　〈気〉気象　〈数〉数学
〈農〉農業　〈林〉林業　〈動〉動物　〈植〉植物
〈鉱〉鉱業　〈生化〉生化学　〈機〉機械　〈空〉航空
〈原〉原子力　〈生理〉生理学　〈測〉測量　〈紡〉紡織、織物
〈電算〉コンピュータ　〈光〉光学　〈写〉写真
〈生〉生物学　〈冶〉冶金　〈宇〉宇宙工学　〈建〉建築
〈船〉海事、船舶　〈鉄〉鉄道　〈印〉印刷　〈映〉映画
〈美〉美術　〈馬〉馬術、競馬　〈舞〉舞踊、ダンス